

○第4期メンタルヘルス法務主任者資格認定試験

[基礎問題]

【精神医学】

(1) 次の文章のうち、もっとも適当なものの組み合わせを選んで下さい。(配点5)

ア 精神科治療における投薬では、複数の向精神薬の組み合わせにより、症状に対する特異的効果が発揮されるため、複数の向精神薬を調合することが重要とされている。

イ 心理療法において、患者の愁訴を傾聴し受容することは、基本的な技術であるので、副作用の危険性は無い。

ウ 精神科における治療では、まず初診で診断名を明確に付けて、その病名に適用のある投薬を続けることで、治療効果が高くなる傾向がある。

エ 精神科の治療においては、場所や時間を限定するような、明確な治療上のルールを患者に提示することが、有効である場合がある。

- ① アのみが正しい。
- ② アとイが正しい。
- ③ イとウが正しい。
- ④ アとウとエが正しい。
- ⑤ エのみが正しい。

【産業保健(1)】

(2) 次の文章のうち、もっとも適当なものの組み合わせを選んで下さい。(配点5)

ア 平成27年4月に労働安全衛生規則第14条(産業医及び産業歯科医の職務等)が改正され、産業医の法的職務としてストレスチェックの実施(共同実施でも可)が加えられた。

イ 作業環境管理、作業管理、健康管理を指して労働衛生3管理というが、これに労働衛生教育、総括管理を加えて労働衛生5管理ということもある。

ウ 長時間にわたる過重労働を行った後、申し出た労働者に対して医師が行う面談も、ストレスチェックで高ストレスとの結果を得て申し出た労働者に対して保健師が行う面談も、法令上の「面接指導」に当たる。

エ 労災保険による二次健康診断等給付制度では、事業者が行う定期健康診断において、血圧、血中脂質、血糖、BMI(肥満度)のうち2つ以上の異常所見がある場合に、労働者の請求に基づき、二次健康診断と特定保健指導が給付されることになっている。

- ①アとイ
- ②イとウ
- ③ウとエ
- ④エのみ

【産業保健（2）】

（3）次の文章のうち、もっとも適当なものの組み合わせを選んで下さい。（配点5）

ア 厚生労働省が公表した「心の健康問題により休業した労働者の職場復帰支援の手引き」によれば、試し出勤制度では、実際に業務に従事させて、業務遂行能力（の快復度合）を把握することが重要とされている。

イ 自殺が起こった後、職場の元上司・同僚などへの心理的な影響を軽減するための予防的な取り組みをプリベンションという。

ウ 厚生労働省が公表した「心理的負荷による精神障害の認定基準」において、業務による強い心理的負荷は、精神科医によって判断される必要があるとされている。

エ 長時間労働などの過重労働をしている労働者を対象とする面接指導を担当する医師は、状況によっては、労働者の同意がなくても、聴取した情報を事業者に伝えることができる。

- ①アとイ ②イとウ ③ウとエ ④エのみ

【法務】

（4）次の文章のうち、適当でないものを選んで下さい。（配点5）

①労働基準法上の法定時間外労働の制限の基準と労災保険法に基づく精神障害の労災認定基準が過重負荷と認める長時間労働の基準は異なっている。

②裁判所は、脳心臓疾患や精神疾患の業務上外の判断に際して、行政の労災認定基準を参考にしつつも、それより緩やかに過重負荷を認定する傾向にある。

③産業医は、刑法上守秘義務を定められているので、当該労働者に自傷他害の恐れがあるような緊急の場合を除き、業務上取得したその者の健康情報を上司等に伝えることは許されない。

④同僚が本人が秘匿していた健康情報を会社の人事部門に伝える行為は、通常、個人情報保護法違反には当たらない。